

ばってん

事務長会報第16号

平成16年10月1日

長崎県公立学校事務長会

長崎北高等学校内
〒851-1132 長崎市小江原1丁目1-1
電話 095-844-4411



ホテルモントレ長崎
TEL 095-822-2251
長崎市筑後町4番10号

三つの“馬”の戒め

副会長 脇坂正孝 (佐世保南高等学校)



会報「ばってん」は、先輩諸氏のご努力で格調高い名文が連綿と掲載されてきましたが、今回は悪文でお茶を濁すことを許していただきたい。

「三つの馬」とは、今年が午年でないのに何でかと思われるかもしれませんが、別に動物としての「馬」の話ではなく、格言等の言葉としての「馬」のことです。これは、私が以前、若い事務職員の皆さん方に話をする必要に迫られ、何を話そうかと困ったあげく考えついたのがこのタイトルです。

仕事を進めて行く上で最低限必要なことを、「馬」と関連づければ、少しはおもしろくなるかなと思って、このタイトルにしました。

会員諸兄には余計なことと思われるかもしれませんが、長い仕事人生の戒めの一つ、部下職員の指導の一部と思って、読んでいただければ幸いです。

三つの馬の第一番目は、「無事これ名馬」。いうまでもなく人は先ず健康ということなのです。

WHO憲章前文の定義によると“健康とは身体的、精神的並びに社会的に完全に良好な状態にあることであり、単に病気や虚弱ではないことにとどまるものではない。・・・以下省略”とありますが、この前文でいう健康とはいかにも超理想的な状態で、完璧さが求められているようです。それだけにこの定義によって、健康か否かを判断するとなると自分は健康だといえる人は少ないのではないかと思います。

健康のとらえ方は年齢や環境で人それぞれ様々でしょうが、通常の生活や仕事に影響のない状態であれば健康といえるのではないかと思います。会員の皆さんもそれぞれ世にいうところの壮年、諸器官をはじめ、体の隅々に故障の出る年齢で、若い頃と同様にはいきません。健康診断を受ければ、必ず1つや2つの異常を指摘されることはしばしばでしょうし、確実に衰えていくことは目に見えています。しかし、できることならなんの異常もなく、元気を維持したいものです。

健康作りについては、国や県をはじめいろいろな機関で施策が講じられ、その方法や情報はあふれています。健康のための運動などやろうと思えばいくらでも方法はあるようですが、なかなかそうはいきません。

始めても三日坊主に終わり、継続することは困難

なことです。会員諸兄は食事や運動等それぞれ何らかの健康対策を実行されていることかと思いますが、続けるには強い意志が必要かと思いますが、その人に合った健康法を持続し、退職まで、そして第二の人生を心ゆくまで健康で過ごしたいものです。

第二の馬は、「人間万事塞翁が馬」。謂われは中国の故事にあるとおりです。“人生の吉凶や禍福の、転交まわりないこと”とあります。人間生きていくうちにはいろいろあります。人生いろいろです。

例えば仕事上最も身近な人事異動に関して言えば、私達は県内どこにでも赴任することになっています。

遠隔地に赴任することもあるし、いろいろな校種の学校に異動することもあります。しかしどの学校に赴任しようが、それは問題ではなくその場その場で一生懸命勤務すればよいことであって、結果的には良いこともあるし、悪いこともある。そのときその人の巡り合わせだと思います。そのときは、良いことではなくても巡り巡って良いことに繋がります。逆の場合もあるでしょうが、人生いつも順風満帆とは限りません。

前向きの姿勢で行きたいものです。

三番目の馬は、“うまでかねもうけしたやつぁないよ”これは、ご存じのとおり、前都知事 青島幸男が作詞し、植木等が軽快に歌った「スーダラ節」の一節で、その2番に、“ねらったおおあなみごとにははずれ・・・略・・・きがつきゃボーナスはァすっからかんのカラカラ うま(馬)でかねもうけしたやつぁないよ・・・略・・・”とあります。勝手に解すると、ギャンブルはほどほどにということなのです。ギャンブル善悪論になると難しい話になりますが、問題は自分の資金が自己資金の範囲を超え、それがために自己資金以外に手を出し、ひいては最悪の事態を招く結果になるということです。くれぐれも、その辺りはわきまえて、不幸なことにならないよう、お互いに留意したいものです。

以上、とりとめのない文章ですが、言わんとすることは分かっていたらと思います。皆様の人生や仕事がうまくいくよう、最低必要なこと基本的なことを述べてみました。勿論、私自身の戒めとして。

「輝け北辰のごとく」

北辰 = 北極星

佐世保北高等学校・中学校 橋村 鴻志

本年4月8日、佐世保北高等学校に本県初の併設型中高一貫校として、県立佐世保北中学校が開校した。1学年3学級120名(男女各60名)が入学し、佐世保北は、中高一貫教育の学校として新たな歴史の第一歩を踏み出した。

新学期が始まると、「お早うございます」、「こんにちは」と中学生の明るく元気な声が、学校中に響き渡った。

中学生は、その大半が佐世保市内の出身だが、他の地区から90分以上も掛けて通学してくる生徒もいる。また、小さな身体に、中高共通の真新しい制服を着て、分厚い鞆と、重そうに補助バッグを背負って、高校生と一緒に登校している。

普通教室は、高校生と同じ教室棟の1階にあり、中学校に必要な特別教室(技術教室、パソコン教室等)は、旧特別教室の全面改築を行い、この夏に完成した。

学校行事の主なもの、中高合同で行うが、中学校独自の行事としては、野外宿泊訓練・中体連(佐世保市中体連に参加)・県中総体・スケッチ大会・弁論大会・しまの生活体験学習・合唱コンクールが加わり、学校全体としての行事が錯綜している。

部活動は1年生だけということで、バスケット・サッカー・テニス・吹奏楽部等は設定されたが、将来は高校にある部活動なら入部できるように計画されている。練習は、高校生と一緒にすることが多く、高校生の優しい指導もあって、上達も早い。中高を通しての部活動の活躍が期待できる。ただ、現在、体育館・運動場等の練習場所の確保が、大きな課題となっている。

北中に入学した生徒達は、はっきりした将来の目的意識をもって入学した生徒が多い。6年間という長いスパンのゆとりのある学校生活で、目的をもって勉学を続ければ、夢は必ず実現すると確信する。

佐世保北中学の生徒達は、この学校で心身共に健やかに成長し、佐世保北中学校・高校のスローガンである「輝け北辰のごとく」のように、多数の中にあっても燦然と輝く個性を持った、日本は勿論、世界の人々の道標となるような、すばらしい人材に育ってほしいと心から願っている。

意見 異見 違見

五千元也～ガラス破損と損害保険～

長崎商業高等学校 主任 瀧田 邦博

ある日の早朝、練習中のソフトボール部のボールが、フェンスを越え駐車場の自家用車に命中、リアガラスが粉々に砕け散りました。修理費が十数万円、学校が掛けている保険会社に状況を説明しましたが、対象外と保険金は支払ってもらえませんでした。

その数日後夕方遅く、バスケット部員がボールを追いかけ体育館玄関ドアに衝突、網入りの大きなガラスを割ってしまいました。幸いケガはほとんどなかったのですが、部活終了時間後の出来事でしたので、同じ保険会社に交渉してみましたら、今度は免責を除いた修繕料を保険金で払ってもらうことができました。免責のため自己負担になった5千円について、顧問から部費で支払うと話しがありました。が、ガラスを割った生徒本人は、「部員が減って部費も少なくなっているので部員に迷惑を掛けたくない。バイトをしているので自分で払いたい。」と申し出てきましたので、次のアルバイト料をもらう日まで支払いを待つことにしました。

しばらくして朝早く、玄関前で生徒会が始めた朝のあいさつ運動中の彼が走って来て「お金持ってきました」と、ズボンの後ろポケットから二つ折りの財布を取り出し、中の千円札を全部引き出して「ありがとうございました」と一言添えて、走って仲間の元にもどりました。「おはようございまーす」と元気よく連呼している姿を見ながら、家計の足しにと特別に許可されてアルバイトをしている彼が差し出した5枚の千円札は、私の手のひらには少し重く感じました。

今、学校にはPTA安全互助会や施設損害保険等たくさんの種類の損害保険が掛けられているのに、保険の種類や内容については、把握できていないのが現状ではないでしょうか? これらを把握し、適切な対応をすることも学校の危機管理の1つのような気がするできごとでした。

●事務職員●

協会 ウォーキング
思いつくままに

佐世保ろう学校 村上 喜代子

公立学校事務職員協会の研究大会、総会が去る八月に大村市で開催された。私にとっては、学校生活最後の研究大会であった。昭和三十九年に学校事務職員となり、その間何回となく参加してきたが、今回は特に感無量の思いだった。講演では、大村市教育長の西村順子先生が「坂には三つのさかがある」と題して、登り坂・下り坂・まさかのまさかについて、あの痛ましい長崎事件や佐世保事件に触れられ

た。まさかあの子が…まさかあんなむごいことを…我が耳を疑いたくなる悲惨な出来事だった。子どもの躰はいくつ(ここのつ)までにすることが大事とのことであった。家庭・学校が手を携えて子どもたちの人格形成に係わって行かなければとつくづく思った。ここ佐世保ろう学校には三才児から在籍しており大切な時期にある子どもたちなので微力ながらお手伝いをしたいと思う。話しは変わるが、これまで勤務した学校を振り返ってみるとそれぞれの事務室で多くの方々との出会いがあった。当時の事務室の雰囲気や仕事の様子等が懐かしく脳裏に浮かび思い出す。残り数ヶ月となったが、事務室の一員として子どもたちのため最後まで頑張っていけたらと願っている。

随 想



「広域交流人事の見直し」にあたって

長崎県高等学校文化連盟会長・長崎北高等学校長 古 峨 和 之

三年前、当時の木村道夫教育長から「広域交流人事の見直し」を命ぜられた。「特色ある学校づくり」を推進するための人事異動基本方針はどうあるべきかという命題を与えられたのである。

思い起こせば、教員として長崎県に採用された昭和四十七年に、現在の広域交流人事が動き出そうとしていた。「三年経ったら離島に行かんばぞ」と言われ、その通りの結果となったが、新任教員だけではなく、すべての教員が対象になったのは、それからしばらくしてのことであった。

発足当時、都市部の教員に反発の強かった広域交流人事は、むしろ離島部の教員には歓迎され、離島部・郡部・都市部間の人事交流を活性化させた。そして、新任教員はまず離島や定時制の学校に赴任し、郡部の学校を経て都市部の学校に赴任するという片流れ人事が終わり、人事交流は確実に歩をすすめたのである。懸案の地区間異動が進行し、学校間の平均年齢の格差が是正されることとなったが、とりわけ校長間で進められていた人事が、教育委員会の主導で行われるようになり、県下全体を見通した人事作業が定着した。

その広域交流人事を何故見直すのかという声を少なからず聞くことがある。

その理由は、

- ① 今後は学校規模の縮小と学校の統廃合が避けられないことから、より広域的な人事交流の必要があること。
- ② 赴任希望地区が諫早・大村をはじめとする都市部に集中し、本人の異動希望を優先するには限界があること。
- ③ 県北・県南・県央の広域的な人事交流が進まなかったこと。

- ④ 自宅を保有する者が都市部に集中しているにもかかわらず、自宅から通勤できる学校への赴任が当然視されるようになったこと。
- ⑤ 学校に必要な人材であっても、「一定の年限がくれば異動しなければならない」という現行の規定は、学校経営上問題を含んでいること。
- ⑥ 「特色ある学校づくり」を進めるには、校長の人事権を拡大する必要があること。
- ⑦ 離島満了者の割合が増え、中断者の補充を促進する必要があること。
- ⑧ 意欲や情熱を適切に評価し、人事に反映させることで職員間の横並び意識を排除できる。

等である。このため、今回の見直しにあたっては、次の視点を掲げた。

- ① 「特色ある学校づくり」を進めるために校長の権限を拡大する。
- ② より広域的な交流を進めるため、地区区分を変更する。
- ③ 教職員の情熱や意欲を評価し、人事に反映するしくみ（自己推薦制度）を導入する。
- ④ 離島中断者をできるだけ早い時期に補充させる。

ところで、自宅から通える学校、親元に近い学校、生活の利便性の高い地域の学校に勤務したいというのは、誰しも思うことである。校長であれ、人事班であれ、それぞれの願いを叶えようと作業に当たってはいるものの、それだけで良いのかという思いが一方では起こる。何故ならば、学校や生徒の実態にあわせて、必要とする人材を配置するのが基本的な視点であるからである。

言うまでもなく我々は、長崎県の教職員として採用されている。全体の奉仕者として職務を遂行する立場にある教職員は、県下全域が職場と考えなければならぬ。

人事異動に際して、「希望と納得」が必要であるとの一部の主張は、人事を私物化するものであると考える。個人的な理由はあくまでも「配慮事項」ととどめるべきであり、「希望と納得」の人事が長崎県の教育にとってマイナスに働いたことは、「広域交流」以前の歴史を考えれば明白であろう。

これから秋にかけて人事の時期を迎える。昨年までとってきた態度を、校長になって「ころっと変えた」と言われたいような心がけたい。

編 集 後 記



今年の夏は、とりわけ手ごわい夏でした。焼かれるがごとき炎熱の日々、アテネ寝不足、ヘビー級台風などなど、その手ごわさといったらありません。それらをかいくぐり乗り越えて、やっとのことで秋にたどりついた思いです。

「ばってん16号」をお届けします。今号の随想は県高等学校文化連盟会長の古峨和之先生に御執筆いただきました。秋の深まりとともに、事務長ならずとも気になり始めることといえば、さしずめ人事異動でしょう。そんな折、古峨先生が人事の要諦を御教示くださいました。ありがとうございます。年が明けたら、事務長会でも異動ムードが一気呵成に高まるのではありますまいか。さあ、心静かに沙汰を待ちましようぞ、御同役。

併設型の中高一貫校がスタートして半年が経ちました。年かさで大柄な高校生に混じって、中学生はどう過ごしているのだろうか。これには大方の事務長が関心を寄せているものと思われまます。そこで、佐世保北の橋村事務局長に校内の日常を紹介していただきました。その様子は一読のとおりです。高校生に見守られながら伸び伸びと学ぶ中学生に、つい拍手を送りたくなるのは、はたして私だけでしょうか。橋村氏ならずとも、彼らの健やかな成長を願わずにはおられません。

ところで、紙面を借りての御紹介です。かつて事務長会の会長を務められた松尾政美様が、今年の県展の洋画部門で見事、入選を果たされました。しかも初出品で初入選の由、快挙と申し上げるべきでしょう。おめでとうございます。共々に喜びたいと存じます。私は、これから氏のことを「松尾画伯」とお呼びすることに決めました。(に)